

## 配信型授業のコミュニケーションを支援する コメント共有手法に関する研究

川上 未来

近年、中高等教育の現場ではコミュニケーションの重要性が注目されている。学習意欲の向上や高い学習定着率等、学習者間のコミュニケーションおよびそれに伴う相互作用の学習効果は広く知られている。コミュニケーションの観点から見ると日本の授業の形は講義型授業と議論型授業に分けることが出来るが、本研究で対象とするのは、講義型授業の発展形である配信型授業である。

配信型授業には、受講者が同時に一教室に集まらなくて良いという利便性がある。しかしその一方、同じ講義を受講している受講者間でコミュニケーションをとることが出来ず、そのために学習意欲の持続や学習効果の面で課題が残されていた。その課題点を改善し、インターネットの利点も生かしながら、配信型授業に議論型授業の利点である受講者間のコミュニケーションを取り入れることが本研究の目的である。

本研究では、配信型授業のコメント機能に、コメントの匿名度、コメントの伝わる範囲を発言ごとに調節可能にする機能を付与する手法を提案する。インターネットの利点を生かす匿名度選択、現実のコミュニケーションを再現する範囲選択によって受講者の参加意欲や学習定着率が高まることが期待できる。

本研究では SNS (Social Networking Service) の構造を元に、匿名度と範囲の選択の機能を備えた配信型授業のコメントシステムを実装し、同時に、配信型授業における受講者間コミュニケーションの潜在的な需要と、提案システムの受容性、使用したいと思うかについてアンケート調査を行った。その結果、配信型授業における受講者間のコミュニケーションには潜在的な需要があり、匿名度と範囲の選択の機能は受講生に受け入れられ、かつコミュニケーションを促進する効果が見込めることが明らかになった。実装した提案システムは配信型授業の受講者間コミュニケーション支援に役立つといえる。

しかしその一方で、新たなシステムを使用することに関しては抵抗感があること、匿名度選択の機能により教室が荒れる懸念があるという課題点も浮き彫りになった。懸念を検討するため、実際に実装したシステムを使用した利用者実験を行い、提案システムを使った配信型授業で起こるコミュニケーションの実態を明らかにすることや、より抵抗感の少ないインターフェースへの改良、コメント機能の更なる拡張が今後の課題である。

(指導教員 佐藤哲司)